

関西支部報告

第11回カラーコーディネーターシンポジウム

実行委員長 松田博子

今回のシンポジウムは、2009年3月28日(土)、大阪市立大学文化交流センターにおいて「色彩心理」のテーマで開催いたしました。参加者は68名。講師には、「第9回 ロレアル 色の科学と芸術賞」の金賞を受賞され、錯視で有名な立命館大学の北岡明佳先生と、京都大学大学院でヒト脳の色覚過程研究をされている山本洋紀先生のお二人をお招きし、貴重なお話を伺いました。

<第一部> 北岡先生のご講演 「色の錯視と残像」

最初に「入学式」と題した錯視を見せて頂きました。灰色だったサクラの花びらが、背景色が現れるとピンク色に見えました。会場全員がびっくりした瞬間です。北岡先生は沢山のカラーコピーをご用意して下さっていて、動いて見える「踊るハート達」錯視では、脳内処理速度との関係を、有名な「蛇の回転」錯視では、動く方向の分類などを解説して下さいました。それから、①色の対比 ②色の同化 ③彩度対比 ④ムンカー錯視 ⑤色の土牢錯視 ⑥遠隔色対比・遠隔色同化 ⑦「第3の」強力な色相の錯視 ⑧色のフィリング・イン ⑨図地分離による色の錯視 ⑩色収差による錯視 ⑪主観色 ⑫色の残像、という課題に沿って、時間の許す限り沢山の錯視図形とその解説をしていただきました。とても楽しい時間でした。

当日のセミナーに用いた資料は、「発表に使用したウェブページ」と題して下記の北岡先生のホームページ上に掲載されています。

<http://www.psy.ritsumei.ac.jp/~akitaoka/shikisaigakkai2009.html>

<第二部> 山本洋紀先生のご講演 「脳の研究から見た色彩」

MRIで撮影された山本先生ご自身の視覚野映像のデモンストレーションから始まり、その後、色と視覚野の関係を解説して頂きました。会場の人たちはとても

びっくりしていました。山本先生の脳が映像の中で回転していたのです。それはとても衝撃的な映像でした。回転している脳は機能している部分が色づけされていて、美しく映し出されていました。また、文字に色がついて見える共感覚者のお話や、中枢とまではいえないにしても、唯一の色だけに特化した脳領域の存在があるというお話を、短い時間ではありましたが、わかりやすく解説していただきました。

<質疑応答> では、「錯視は何故美しいといわれているのか」、「夢やイメージを描くだけでも脳の視覚野は反応しているのか」など、錯視と脳についての質問があがりました。またシンポジウム終了後も先生方の前には行列のできるだけ盛況でした。

<アンケート>では、「錯視による色の見えの変化は資料による大まかな知識しか知らなかったが、今回は驚きの連続でとてもわかりやすい内容だった」(多数)、「特に脳という角度からの内容はとても新鮮だった」(多数)、「お二人の組み合わせの内容にととても満足した」、「今後も多角的な方向から見た色の話を聞かせて欲しい」というご意見を頂きました。

